

舞鶴-小浜地域の地質：超丹波帯・丹波帯の地質構造

亀高正男¹・菅森義晃²・石田直人³・東 篤義¹・山根 博¹・
杉森辰次¹・魚住誠司¹・梅田孝行¹・松井和夫¹・永田高弘¹・
岩森暁如⁴・玉田潤一郎⁴・金谷賢生⁴ (1: ダイヤコンサル
タント, 2: 大阪市大・理, 3: 新潟大・自然, 4: 関西電力)

Geology of the Maizuru and Obama Districts, Southwest Japan:
Geological structure of the Ultra-Tamba and Tamba terranes

Masao KAMETAKA¹, Yoshiaki SUGAMORI², Naoto ISHIDA³, Atsuyoshi
HIGASHI¹, Hiroshi YAMANE¹, Tatsuji SUGIMORI¹, Seiji UOZUMI¹, Takayuki
UMEDA¹, Kazuo MATSUI¹, Takahiro NAGATA¹, Akiyuki IWAMORI⁴,
Jyunichiro TAMADA⁴ and Kensei KANAYA⁴ (1: Dia Consultants, 2: Osaka
City Univ., 3: Niigata Univ., 4: KEPCO)

舞鶴-小浜地域に分布する超丹波帯・丹波帯の地質構造について調査・
検討を行った。本地域では5万分の1地質図幅「舞鶴」(猪木ほ
か, 1961)及び「小浜」(広川ほか, 1958)が刊行されているが、こ
れらは付加体地質学的な見知からの調査や解釈がなされていない。その
後、幾つかの研究によって一部地域の地質図が公表されている(例え
ば, Caridroit et al., 1985)が、丹波帯の内部構造や超丹波帯の分布に
ついては依然として不明な点が多く残されていた。今回の調査では超丹波
帯・丹波帯北縁部の踏査を行い、今日まで蓄積されている地質情報を統合
し、詳細な地質図を作成して地質構造を検討した。

【構成岩類】

調査地域には北から順に舞鶴帯・超丹波帯・丹波帯の各地質体が分布し
ている。舞鶴帯南部は夜久野オフィオライトの緑色岩類・変斑れい岩・超
苦鉄質岩からなり、頁岩などの碎屑岩を伴う。超丹波帯は構造的上位から
大飯層と氷上層に区分される。大飯層は千枚岩様を呈する頁岩を主体と
し、砂岩・砂岩頁岩互層・チャート・珪長質凝灰岩や泥質混在岩を伴う。
氷上層は主に塊状の緑灰色砂岩からなり、頁岩や泥質混在岩を伴う。丹波

帯は中江(2000)の区分をもとに、5つのコンプレックス(以下C)及
び古屋層に区分した。これらは構造的上位から周山C・雲ヶ畑C・灰屋
C・鶴ヶ岡C・古屋層・由良川Cの順に壘重している。前三者は石賀
(1983)のII型地層群に相当し、泥質混在岩を主体とする。後三者はI
型地層群に相当する。鶴ヶ岡Cと由良川Cは泥質混在岩中に数kmに及ぶ
チャートのシート状岩体が多く挟まれている。古屋層は砂岩・頁岩・砂岩
頁岩互層からなる正常堆積物である。

【地質構造】

調査地域の各地質体は、スラストを介して北西側が構造的上位を示すパ
イルナップ構造を持つと考えられる。このうち丹波帯では、東西～北西-
南東方向の軸を持つ褶曲構造が発達している。今回の調査から、おおい町
名田庄納田終から同町川上南方にかけて、超丹波帯が丹波帯と共に褶曲し
ていることが明らかになった。

調査地域の西部では、上林川断層が北東-南西方向に延びている。上林
川断層は、右横ずれを示す変動地形で特徴づけられる活断層である。綾部
市睦合町から同市睦寄町北方にかけては氷上層が欠如し、大飯層と周山C
が上林川断層を介して接している。上述した褶曲構造は、上林川断層の北
東延長部に相当する断層によって切られている。地質構造からは、この断
層による左横ずれの変位が読み取れる。従って、上林川断層はもともとは
丹波帯の褶曲構造形成後に活動した左横ずれ断層であり、現在の上林川断
層はその一部を利用した右横ずれ断層であることが判明した。西南日本内
帯では、同様の断層の運動方向の逆転が牛首断層などでも認められており
(大橋・小林, 2008)、狩野(2008)が指摘したように活断層の形成
に基盤岩類の地質構造が重要な役割を果たしていることがわかる。

【文献】

- Caridroit, M. et al., 1985, Earth Science (Chikyu Kagaku), 39, 210-219.
広川 治ほか, 1958, 5万分の1地質図幅「小浜」及び説明書。地質調査所。
猪木幸男ほか, 1961, 5万分の1地質図幅「舞鶴」及び説明書。地質調査所。
石賀裕明, 1983, 地質学雑誌, 89, 443-454.
狩野謙一, 2008, 日本地球惑星科学連合2008年大会予稿集(CD-ROM), T229
-003.
中江 訓, 2000, 地質学論集, no.55, 73-98.
大橋聖和・小林健太, 2008, 地質学雑誌, 114, 16-30.